

消防団員の待遇改善は

報酬改正の準備を進めている



質問 消防団員の待遇改善

に向けた見直しはどうか。

答弁 消防団員の報酬基準が示された。市としては令和5年4月1日からの適用を目指し所要の改正を行う準備を進めている。

いる。
質問 消防団員の訓練などの現状はどうか。
答弁 新型コロナウイルス感染症の拡大により、水防演習や消防操法競技会が中止を余儀なくされ、災害発生時の対応能力の低下が危惧される。市独自の対策として、消防ポンプ自動車や可搬型ポンプの基本的な取扱訓練、土砂災害時の対応救出訓練を人数制限を設け実施している。

菅野 広紀

(碧い風)



若者のUターン促進策は

気仙の求人多く呼び込み重要



質問 Uターン施策を進める上で、対象者の情報を集める必要があるのでは。

答弁 本市に転入する際、窓口での調査を県と連携して

質問 社会人経験を積んだ人が本市に戻って来るには。
答弁 気仙地区の求人倍率は、ここ数年1.4倍程度を推移し、労働者不足の状況だ。5から10年程度の社会人経験がある人は、事業者が即戦力として求める年齢層と合致する。呼び込みが重要だ。
質問 県は東京圏からの移

あるようだ。市の取り組みは。
答弁 まずニーズ調査も含めてNPOなどとしつかり話をし、認識を合わせながら事業を進めていきたい。

し、意見や要望をいただきながら環境整備を行う。
ピーカンナッツは
質問 ピーカンナッツの苗木について、品種登録や販売の見直しはどうか。
答弁 現在、鹿児島県産品種で試験栽培を行っている。品種登録は、新種の開発が行われた場合に検討課題になると考えている。また、苗木販売事業は初めての取り組みで、ピーカンナッツ農業未来研究所と連携を進めていく。
質問 ピーカンナッツ圃場拡大策として、遊休農地や小友浦干拓地の活用はどうか。
答弁 小友浦干拓地は候補



ピーカンナッツ畑 (高田町)



市でも活用予定のLINE



木村 聡

(翔成)

貝毒の天敵発見は

一筋の光が差し込んだ



質問 東北大研究グループの「貝毒原因プランクトンの天敵を発見」の研究結果について、今後の連携はどうか。

答弁 まさに養殖漁業者等に一筋の光が差し込んだ。実用化に向けた研究成果が待たれ、県水産技術センターなど



藤倉 泰治

(日本共産党)

の技術指導のもと連携している。
質問 5月末、地元新聞に経済産業省の「ALPS処理水」の全面広告が掲載された。海洋放出撤回に向けた今後の市の対応はどうか。
答弁 市は「漁業者への十分な説明と慎重な対応」や「海洋放出によらない新たな処理・保管方法を国の責任で検討」を県市長会を通じて国へ要望してきた。6月6日の国及び東電による県漁連等への説明は従来からの繰り返しで、合意できるものではないかと伺っている。引き続き漁協や漁業関係者とともに国に働き掛けていく。

消防団員の報酬は
質問 消防団員の報酬見直し通知に対する今後の対応はどうか。
答弁 本市は年額報酬2万3500円、出勤手当1回あたり2200円となっている。消防団員の基準は年額3万6500円、出勤1回あたり8000円とされた。この基準に従い検討を進めている。
本市の財政指標は
質問 他自治体と比較して本市の財政指標はどうか。
答弁 令和2年度の経常収支比率は94.5%であり、全国市町村や県内14市の平均を

将来的には、観光情報、宿泊予約、決済、災害対策機能を備えた本市独自の観光アプリを開発し、旅行サービスを拡充して情報を収集し、観光施策に活用していきたい。



作業する漁業者 (要谷漁港)

わずかに上回っている。実質公債費比率は14.9%で県内平均11.6%を上回っているが、平成20年度には19.1%であり、地方債新規発行の抑制や繰上償還などにより、減少させることができた。大震災前からの継続的な取り組みによる成果である。